

月別概況（令和7年）水産

1月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,245 円

一般近海及び小釣では、平目・長ハゲの入荷が多く保合。コチは入荷が多く安値、タコ・スズキは入荷安定保合。トラフグ多く、前年より安値。カレイも安値、サワラは保合。青物では、マサバは九州からの入荷安定保合。イワシ、日本海からの入荷安定保合。アジは浜値が高く入荷が安定せず、やや安値。養殖物では、年末を終え、ブリ・ハマチ類の在池不足がより深刻化してきた。相場も続伸である。カンパチも強気配である為、売れ行き悪し。その他養殖魚は相場横這いである。太物では、よこは高知3-2Kが中心。高知各浜で水揚げが多く、暴落した日が続く。1月下旬で漁獲枠を超えてしまい水揚げストップ(3月いっぱい)。びんとカツオは全国的に水揚げがなく、まとまった仕入れ無し。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,575 円

銀鮭原料が値上がり続け、トリム製品・定塩製品が大幅に値上がりしている。トラウト・アトランも同様に高値が続いている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,223 円

ちりめんの漁は全国的に少なく、値は高い。

2月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,179 円

一般近海及び小釣では、平目は水揚げが多く保合、コチ・スズキ・丸ハゲ水揚げ多く安値。タコ入荷安定保合、ガン多く安値、メイタは高値。サワラ高値保合、トラフグ多く安値が続く、オコゼは安値でした。青物では、マサバは九州からの入荷安定保合。イワシは日本海からの入荷安定保合。アジは浜値が高く入荷少量、全国的に水揚げが少ない。養殖物では、ハマチ・ブリ共に在池不足が深刻化している。相場も続伸である。カンパチ・平目等も含めて全般に売れ行きは悪い。3

月になっても状況は変わらない。太物では、本よこは長崎・島根が中心。3-4K サイズが中心。高値安定 k1300-1600 円。びんは宮崎が中心。全国的に水揚げが少なく浜値高。売りがなかなかついてこない。カツオは全国的に水揚げが少ない、ほとんど入荷無し。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,280 円

国産タコは例年通り水揚げが少なく、k3000 円オーバーで高値。海外タコは為替・輸送コスト・ヨーロッパの買い占め等が関係しており、2 年前から上げ相場。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,080 円

ちりめんの漁は全国的に少なく、高知で少し獲れ値は高い。いかなごの量は兵庫と香川は漁がない。メカブの漁は昨年より多い。

3月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,147 円

一般近海及び小釣では、平目は水揚げが多く保合。ワタリガニの良品だけ高値、後は安値。オコゼ、良品の大サイズ高値、後は安値。スズキは水揚げ安定、保合。メバル・ガシラの相場は少しずつ高くなる。シケ日が多く漁が少なかった。青物では、サバは九州からの入荷安定保合。イワシ、日本海からの入荷安定、値の上下幅が大きい。アジの浜値は先月と変わらず高い、時々高知から入荷するが安い。養殖物では養殖ブリ・ハマチの在池不足が先月よりさらに厳しくなった。週ごとに浜値も上がっている。売れ行きも良くない。カンパチも同じ状況である。うなぎの稚魚が豊漁である。来年以降、成鰻相場は下げとなる。太物では、本よこは長崎・島根が中心。漁獲枠の関係で水揚げが不安定、値も高値。びんよこ、高知が中心だが、水揚げ少ない。カツオは高知が中心。水揚げが不安定なこともあり、浜値高。なかなか売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,348 円

カツオの水揚げが少なく、供給が追い付かなくなっている。ホタテは高値が続くが、国内の販売は、相場についてこない。凍魚はサバ、カラスカレイ、赤魚などの主要魚種の値上げが続く。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 746 円

ちりめんの漁は全国的に少ない。高知で少し漁があり、値は高い。メカブの漁は昨年より多い。

4月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,210 円

一般近海及び小釣では、平目・コチは水揚げが多く安値、スズキ水揚げが多く保合。鱧は水揚げが安定するが安値。ガシラは下げ相場。水物の油メ・マコカレイは高値、メバル保合、オコゼ安値。青物では、サバは九州からの入荷安定、安値。イワシ、日本海からの入荷安定、保合。ハマチは県内外からの入荷安定、保合。養殖物では、養殖ハマチが例年より約 1.5 ヶ月早く新物の 2 年生に替わった。浜値もさらに上昇し、売れ行きも良くはないが、思いのほか売れている。カンパチも在池不足から浜値が上がり、売れ行き悪し。太物では、本よこは高知 2-3K が中心。浜値が高く、売りがついてこない。びんよこ、高知・鹿児島・宮崎が中心。水揚げが不安定で浜値が高い。カツオは千葉・高知が中心。安定した水揚げになってきたが引き合い強く浜値が高い。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,611 円

銀鮭は国内搬入量が減少する可能性が高い為、相場は若干の上げ(チリ輸出対日本 79.4% チリ輸出対海外 151.9%) 紅鮭は前年比の 1.5 倍以上のオフアーとなっており高止まり。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 452 円

ちりめんの漁は全国的に昨年より少なく値は高い。わかめの漁も昨年より少なく値は高い。

5月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,058 円

一般近海及び小釣では、鱧は水揚げが少なく高値、アッコ・平目水揚げ安定保合。

マコカレイの水揚げが少なく高値が続く。オコゼは安値、メバル・ガシラ保合、スズキ水揚げ安定保合。青物では、サバは日本海・九州からの入荷安定保合。イワシ、日本海からの入荷安定保合。アジは浜値が高く入荷が少ない。養殖物では、養殖ブリ・ハマチが新物に代わりサイズが2K台、浜値がさらに上がり、ゴールデンウィーク以降売れ行きも非常に悪い。カンパチは在池不足が深刻化。その他養殖魚は相場横這いである。太物では、よこは全国的に水揚げが少なく入荷も不安定。びん、高知が中心。水揚げが多く暴落した日が続く。カツオは水揚げ量によって浜値が大きく影響を受け前半は売りが好調であったが後半は売値が追い付かない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,632 円

国産タコ(徳島)が昨年と同じくらいの数量の漁獲があり、値段はk50~100円上げ相場。アフリカタコの相場は一定で、常に高水準である。凍魚(ノルウェーなど)のサバは値上がり傾向、中国・韓国サゴシは値下げ傾向。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 878 円

ちりめんの漁は全国的に少なく値は高い。

6月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,052 円

一般近海及び小釣では、鱧・アッコは水揚げが多く下げ相場。マコカレイは少なく高値。平目、水揚げ安定保合。オコゼは安値。メイタは高値。メバル・ガシラ・スズキは保合。青物では、サバは日本海から入荷安定、サイズが小さく下げ相場。イワシも鳥取からの入荷安定、こちらも下げ相場。アジは九州からの入荷安定。養殖物では、養殖ブリ・ハマチは先月に続きサイズは2.5Kg前後で売れ行きも鈍い。カンパチも在池不足の為、相場も強含み、売れも鈍い。この状況はしばらく続きそうである。太物では、本よこは全国的に水揚げなく、入荷不安定。びん・かつお全国でかつお船の漁が不漁。浜相場が高騰してしまい、需要はあるが売値が合わない日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,671 円

貝柱 4S、5S サイズの新物入荷で下げ相場。3S 以上のサイズは水揚げが少なく上げ相場。カツオの水揚げが少なく、高値。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,154 円

和田島のちりめんの漁は昨年比べて少ない。淡路と香川でちりめんの漁が昨年より多く、値も高い。

7月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,195 円

一般近海及び小釣りでは、鱧は水揚げが多く保合。マコカレイ高値、平目は良品高値。コチ、水揚げが少ないが保合。釣物は良品高値。アッコ高値、オコゼ安値、スズキ入荷安定保合。青物では、サバは日本海からの入荷安定保合。イワシ、日本海からの入荷安定保合。アジは浜値が高く入荷が少ない。養殖物では、ブリ・ハマチ・カンパチ共に相場強含みの為、売れ行き悪し。その他養殖魚の相場は横這いであるが、天然物に左右され売れ行きはあまり良くはない。太物では、本よこは青森が中心。水揚げが少なく、浜値も売値も高値。びん、高知・千葉が中心。全国的に水揚げが少なく、浜値が高い。売りがなかなかついてこない。かつおは宮城が中心。需要が多く、浜値も売値も高値。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,496 円

銀鮭は価格が 1.5 倍のオファーとなり、相場は高止まり。紅鮭、価格は横這い下げ相場。トラウトは水揚げ減少の予想となり国内相場は上がる。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,317 円

全国的にちりめんの漁は少なく、値は高い。和田島の漁は昨年より少なく値も高い。

8月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,109 円

一般近海及び小釣りでは、鱧の水揚げ安定、下げ相場。平目・コチの活きは良品高値。ボーゼは水揚げ安定保合、サワラ保合、オコゼ安値、アッコ・カレイ高値。タコ、入荷安定保合。青物では、サバは県内外からの入荷安定保合。イワシ、日本海からの入荷安定保合。サンマは今年は水揚げが多く入荷があった。養殖物では、ブリ類に関しては供給が追いついていない状況で、価格も更に上昇傾向にあり、売れ行きも鈍い。平目・シマアジ・平政の相場も強含みである。今後もこの状況は変わりそうにない。太物では、本よこは全国的に水揚げが少なく入荷不安定、中身も良くない。びん、千葉・高知が中心。本よこが少ない関係でびんの需要が高い。かつおは高知が中心。宮城の需要が高いが水揚げが不安定で仕入れが少なすぎる。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,519 円

海外タコ(アフリカ)の相場が上がり続けており、ヨーロッパの買い占めが主な原因。東北のタコは去年よりも 150 円以上も上げ相場。徳島タコは漁獲が去年よりもやや少なく、値も 100 円高い。まだまだ国産海外共にタコは値が上がり続けると予想されている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,263 円

全国的にちりめんの漁は少なく、値は高い。愛媛で返りちりめんが獲れ、値は昨年より高い。

9月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,069 円

一般近海及び小釣りでは、サワラ・サゴシの水揚げ安定保合、マコカレイは下げ相場。ボーゼの水揚げが高く安値、イサキ高値、タコ入荷安定保合。活平目良品高値、オコゼは安値、鱧保合。青物では、サバ・イワシ日本海からの入荷安定保合。サンマは例年と比べて入荷が多い、保合。養殖物では、養殖ハマチ・カンパチは相場が高く売れ行きがあまり良くない。太物では、本よこは徳島の小よこが中心。水揚げが増えてきたら、浜値、売値共に安値安定。びん、高知が中心。全国的に本よこの水揚げが少ない為、高値。かつおは期待していた宮城県産が不漁、高知県産を販売するがなかなか前年販売分をカバー出来ず。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,719 円

貝柱 5S 以上のサイズで入荷が少なく高値。ボイルホタテは国内在庫が多く S 以下で下げ相場。赤魚・カラスカレイは新物が入荷し上げ相場。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,298 円

和田島・淡路のちりめんは前半は漁が少なく後半に漁が少し増え、値も高い。愛媛で返りがあり、値は高い。

10月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,182 円

一般近海及び小釣りでは、ボーゼ・シオの水揚げが多く保合。タコは入荷が減り高値、スズキ入荷安定保合、アオリイカ少なく高値。活きの平目・コチ・アッコは良品高値、並品保合。鱧は下げ相場。青物では、サバは九州からの入荷が安定しているが浜値が高い。イワシ、日本海からの入荷があったが小さい。サンマは入荷安定、サイズも大きく値も安定していた。養殖物では、ブリ・ハマチは先月同様相場の高値が続き、売れ行きはあまり良くない。カンパチは相場が下がったが天然物に左右され、売れ行きが悪い時もある。太物では、本ヨコは長崎 2-3K、徳島 1K が中心。入荷不安定。びんは高知が中心、水揚げが安定してきた為、浜値は安値安定。カツオは先月に続き宮城県産は不漁、高知中心で売ってはいるが浜値高で売値がついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,806 円

紅鮭の水揚げが少量の状況で、アメリカ・ヨーロッパ自国消費の引き合いが強く、国内搬入は極めて少なく、販売は難しい。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,605 円

和田島・淡路のちりめんの漁は昨年より多く、値も少し高い。鮭の漁が少なく、イクラの値が昨年より高い。

11月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,230 円

一般近海及び小釣りでは、トラフグの水揚げ安定保合、平目・コチ・アッコは下げ相場。鱧・甘鯛・マコカレイは安値、赤舌の大サイズは高値、釣りイサキ高値、タコ・アオリ保合、スズキ安定、ハゲ類良品高値。青物では、サバは九州からの入荷安定保合。イワシは日本海からの入荷安定保合。県外からの入荷は浜値が高く、相変わらず少ない。養殖物では、11月に入り、ブリラウンドの荷動きは良くなった。相場は12月にかけて上昇しそうである。カンパチも同じく上がりそうである。太物では、本よこは長崎・島根・徳島が中心。水揚げが多く、浜値も安定。びんよこ、高知が中心だが水揚げは不安定、量販は本よこで対応。かつおは高知が中心。引き合いが強く浜値高、売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,912 円

東北のタコの値段が去年よりも高く、瀬戸内のタコもそれに伴って高値を記録している。ノルウェーサバの漁獲制限により、大幅に相場が上がっており、国産サバの需要も増えつつある。アメリカ・ロシアの生ズワイ・生タラバは昨年より若干高い相場である。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,524 円

全国的にちりめんの漁は少なく値も高い。数の子は昨年より少し高い。

12月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,471 円

一般近海及び小釣りでは、トラフグの水揚げ安定保合、コチ・アッコ入荷安定保合、平目・スズキ水揚げ多く安値。長ハゲ安値、丸ハゲ良品高値、タコ入荷安定保合。カレイ類ボテ、やせ多く安値。青物では、サバは日本海からの入荷安定保合。アジ・平アジ入荷はあるが少な目、保合。豆アジの入荷が多い。サワラ・サゴシは全国的に水揚げが多く、保合。養殖物では、先月同様ブリの荷動きは良くなっている。相場は変わらない状況。カンパチは水温低下と共に、スレているものが多くなり、なかなか動かない状況。太物では、本よこは長崎・島根・徳島・高知 2-3K が中心。年末にかけて大サイズ(7-9K)の需要があったが、水揚げがなかった。びんは高知が中心だが水揚げが不安定。かつおは高知が中心、関東の引き合いが強く浜値高。売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 2,505 円

貝柱は 5S 以上のサイズで入荷が少なく高値。ボイルホタテは S 以上のサイズで上げ相場、2S 以下は安定。ベビーホタテは稚貝の斃死により、入荷が少ない。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,339 円

ちりめんの漁は少なく値は高い。塩サバも漁が少なく値は高い。